

令和 4 年度 県立土浦第一高等学校 (定時制) 自己評価表

指す学校像		・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、自立し、他者と協働して生きていくために身に付けなければならない力を育てる。 ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人がもつ能力・適性を生かし、社会に貢献し得る人間の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
「重点目標」「具体的方策」の各評価項目において、いずれの分野においても適切かつ妥当な評価を得ている。 今年度の本校教育活動の一層の充実を図るための課題は、以下の通りである。 ・基礎学力定着と分かる授業の展開 ・進路指導の充実 ・基本的生活習慣の確立 ・生徒理解の充実 ・学校情報の積極的発信 ・働き方改革の推進	基礎学力定着と授業の工夫・改善		①一人一人の能力の向上を図るため、個に応じた授業を行い、基礎学力の定着に努める。 ②授業において、個々の生徒の学習を支援しながら、知識と技能の着実な習得を図る。 ③ICT の活用を含め、全ての教員が学習指導の工夫・改善を図り、分かる授業を実践する。	
	進路指導の充実		④3 修 3 卒希望者へのより積極的な支援に努める。 ⑤生徒一人一人の希望に沿った細やかな指導を実施し、各生徒の進路実現に努める。 ⑥進路情報の収集と提供に努め、進路に関するホームルームなどの充実を図る。	
	基本的生活習慣の確立		⑦社会の一員であることを自覚させ、責任ある行動がとれる人間の育成に努める。 ⑧規範意識の高揚を図るとともに、清潔感のある身だしなみを意識させる。 ⑨挨拶の励行に努め、好ましい人間関係をつくる能力を身に付けさせる。	
	個別指導(生徒理解)の充実		⑩生徒に対する個々の支援を充実し、細やかな心のケア・学習相談・進路相談を実践する。 ⑪日常的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒間及び教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。 ⑫キャリア・パスポートの活用を通して、生徒の自己理解を促しながら、きめ細かい指導を行う。	
	学校情報の積極的発信		⑬学校ホームページを毎月更新し、学校情報を積極的に発信する。 ⑭教育活動を積極的に紹介し、地域社会にも定時制教育の理解を求め、広報活動を推進する。	
	働き方改革の推進		⑮会議資料等の紙媒体での配布を控え、デジタルデータで共有するよう努める。 ⑯ICT の活用を推進し、業務の見直しと効率化を図り、休暇を取りやすい雰囲気等、働き方改革への意識を高める。 ⑰在校時間管理システム等の活用により、時間外勤務の縮減を図り、勤務時間の適正化に努める。	
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自立し、他者と協働して生きていくために必要な力を育てるとともに、生徒一人一人がもつ能力や適性を活かし、地域社会に貢献できる人財の育成を目指す。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を目指すために、生徒相互による学習を通して基礎学力の向上を図るとともに、個に応じた進路希望実現のための指導の充実を図る。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	基礎的な知識や技能の習得に向けて努力でき、基本的生活習慣と規範意識を身に付け、自立した社会人となるために必要な知識やコミュニケーション能力の育成を目指す。		

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		基礎学力の定着を図る。	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を積極的に実施する。①			
			観察、応答を通して、生徒の理解度、達成度を把握しながら授業を展開し、「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。①②③			
		個に応じた指導の充実を図る。	低学力の生徒から大学進学を目指す生徒まで個々の学力・能力に応じた個別指導の充実を努める。①⑤			
			小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。①③			
教科	国語	基礎学力及び学習意欲の向上に努める。	生徒の興味・関心や共感のもてる教材を選択し、生徒が主体的に参加する授業を展開する。②③			
			漢字・語句に関する小テスト(月2回程度)の実施をととして、語彙力の向上に努める①②			
			定期テストの結果を踏まえ学習理解の定着が不十分な生徒については補習を行う。①②			
	地歴 公民	基礎学力の向上を目指した指導の充実を図る。	基本的な内容の理解ができていない生徒が多い状況を踏まえ、進度を抑えるとともに、他教科の内容なども含めた基礎の学習を心がけ、高校生の履修内容にふさわしい程度にまで理解を深める。①②			
	数学	基礎学力の定着と向上を図る。	基礎基本の内容に十分な時間をかけて指導する。①②			
			授業毎のプリントを作成し、単元の小テストを実施する。①②			
			希望する生徒を対象に、課外授業を実施する。②			
		学習習慣の定着を図る。	ノート、ファイルを定期的に点検し、「書く」習慣の定着を図る。①②			
	理科	基礎学力の定着を図る。	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を積極的に実施する。①			
			観察、応答を通して、生徒の理解度、達成度を把握しながら授業を展開し、「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。①②			
		個に応じた指導の充実を図る。	低学力の生徒から大学進学を目指す生徒まで個々の学力・能力に応じた個別指導の充実を努める。①⑤			
			小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。①③			
	保健 体育	生徒の実態を踏まえた指導計画の充実を図る。	年齢層、能力差の大きい定時制の生徒の実践を踏まえた調和のとれた弾力的な年間計画にする。①			
			生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことのできる指導計画を図る。①③			
			保健学習における内容の重点化を図り、単元指導計画の工夫・改善を行う。③			
		豊かなスポーツライフの実現を図る。	互いに協力し、練習やゲームを通して体力・能力を高め、生涯体育に繋げると共に、コミュニケーション能力を高める。②			
			学習の効率や安全性を高める集団行動の指導を徹底する。②			
		健康な生活への実践力を培う。	課題学習やライフスキル教育等、多様な体験的、実践的学習方法の活用や受け身にさせない自主的・自発的学習を促進する。①			
			自主的、自発的学習を促進する。①			

別紙様式 2 (高)

	音楽	幅広い活動を通して、生活や社会の中の音楽や音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。①⑩			
			生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、音楽の諸能力の向上を図る。①②③			
			相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。⑦⑪			
	美術	幅広い表現活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、生涯にわたり美術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。①②⑩			
			新学習指導要領に沿って、生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫する。②③⑩			
			生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、美術の諸能力の向上を図る。①⑪			
			相互鑑賞とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションの能力やコミュニケーション能力を向上させる。②⑪			
	英語	基礎学力の向上に努める。	ICT 機器を活用し映像等を使い、授業の中で英語表現を覚えさせる。①②③			
			ノート等を定期的に点検し、生徒たちの授業への取組の改善を図る。①②			
		オーラルコミュニケーションの活用にも努める。	アクティブラーニングを取り入れ、グループワークなどを活用し、思考力・判断力・表現力を養う授業を積極的に行う。①③			
			授業時における生徒相互の会話において、ペアやグループで、英語を積極的に使用させる。①③			
	家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。	授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を解決する力を育成する。①②③			
			技術の習得について、生徒一人一人の能力にあった個別指導の充実に努める。①②			
	情報	基礎学力の向上を図り、ICT を活用する能力を身につけさせる。	情報と情報技術に関する問題に対して主体的に対応できる力と姿勢を育成する。①②			
			パソコンに関する基本的な知識や操作の定着を図る。①②			
	商業	基礎学力の向上を計る。	基本的な内容を理解し、実生活に役立つ力を身につけるよう学力の定着を図る。①②			
			課題学習の内容を精選し、教材や指導方法の工夫をする。①③			
教務		ICT の活用を含めた授業の質の向上と授業時間確保に努める。	ICT を活用した教育活動を促進し、効果的に授業等に活用することで授業の質の向上を図る。③⑬			
			授業開始・終了時刻の厳守、教科・科目の授業時数の確保に努める。③			

別紙様式 2 (高)

	探究活動の推進を図る。	総合的な探究の時間の推進を図るため、教材等を十分に検討する。 ①②③			
	教員研修の推進に努める。	ICTを始め、様々な研修を実施し、指導法への活用とともに教員自らの働き方への意識改革に努める。 ①②③⑩⑬			
	学校情報を積極的に発信する。	ホームページをこまめに更新するとともに、中学校訪問等を充実させる。 ⑬⑭			
	P T A活動の充実を図る。	保護者懇談会やP T A新役員の選出を円滑に行う。 ⑭			
	アルバイトを奨励する。	アルバイトを奨励し、アルバイト 90 日助成を行う。 ⑦⑧⑨			
特別活動	学校行事等を積極的に行い、生徒会活動の充実に努める。	生徒会を中心に生徒主体の行事を実施し、自治的精神を涵養する。 ⑦			
		学校行事等で人間関係形成・社会形成能力の育成を図るとともに、継続的な生徒会活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるようにする。 ⑦⑫			
		キャリア・パスポートの作成及び積極的な活用を行う。 ⑫			
生徒指導	課題を明確にした指導体制の充実に努める。	巡回・巡視活動を通して、問題行動等の未然防止と解消を図る。 ⑦⑨			
	日常生活上の諸問題を生徒自らが解決する取り組みの充実に努める。	好ましい人間関係づくりと自己抑制能力を身に付けるための取り組みの活性化を図る。 ⑦⑨⑪			
	連携・協力して問題を解決する体制づくりの充実に努める。	教育相談体制を確立する。(殻に閉じこもる傾向にある生徒への積極的な声かけ) ⑩⑪			
		保護者、地域社会と信頼関係を構築する。 ⑬⑭			
		教職員間、学校と家庭、地域社会、関係機関との情報交換の推進と協力連携によって、いじめや不登校、中途退学や暴力行為等の問題を早期発見、未然防止の強化を図る。 ⑩⑬⑭			
進路指導	個に応じた多様な進路指導の充実に努める。	進路説明会・就職指導の実施：全校生徒を対象に就職・進学などの進路に応じ、説明会を実施する。面接の練習など、きめの細かい就職指導をする。 ④⑤⑧			
		進路意識を養う：折に触れて進路意識を養うように努める。 ⑤⑥⑩⑫			
		具体的進路実現に向けた支援：個々の生徒の進路実現をより具体的に把握し、ホームルーム担任と連携し、その実現に努める。 ④⑤⑥⑫			
保健給食	心身の健康に留意し、規則正しい生活の促進に努める。	新型コロナウイルス、インフルエンザ等学校感染症予防を徹底する。 ⑦⑧			
		心身の悩みに関しては、その都度適宜相談に応じる。 ⑩⑪			
	学習環境の安全と衛生に努める。	清掃の徹底を心がけ、美化意識を高める。また、放課後の消毒を徹底する。 ⑦⑧⑨ 避難経路を作成し、安全・迅速な防災訓練の実施をする。 ⑦			

別紙様式 2 (高)

	給食での衛生・マナー指導のさらなる向上を図る。	毎食ごとの手洗いの実施を引き続き行うとともに、食前食後の挨拶を奨励する。⑦⑨			
第 1 学年	定時制の生活へ早期転換の支援に努める。	定時制の特性をオリエンテーション等を活用して理解させる。⑧⑨			
		生活実態調査や生徒面談、保護者との密な連絡等を積極的に実施して、生徒の情報収集に努める。そして、生徒一人一人の生活環境等を把握するとともに生徒理解に努める。⑩⑪			
	望ましい学級集団作りに努める。	生徒一人一人と積極的に関わり、生徒との好ましい人間関係をつくる。⑦⑨⑪			
		生徒一人一人の意見や考えを尊重し、協力し合う楽しく明るい活気ある学級集団づくりに努める。②⑪			
	基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成を図る。	集団生活の中における個を理解させる。②⑦⑪			
		生徒相互のかかわり合いの中から思いやりの心を育成し、それとともにトラブルや葛藤、躓き等を乗り越えるたくましい心を育てる。②⑦⑪			
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。⑦⑧⑨			
第 2 学年	自己実現を図るための基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効活用し、努力することの大切さや必要性を理解させる。①⑤			
	進路指導の充実に努める。	二者・三者面談を行い、生徒・保護者の希望を確認し、よりよい進路実現を目指す。⑤⑪			
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。⑦⑧⑨			
第 3 学年	自己の適性を見つめ、適切な進路選択を図る。	希望する生徒には 3 修 3 卒を積極的に働きかけ、生徒の進路実現につなげる。⑤⑪			
		進学希望者には、学校の紹介や学費の説明を通して、選択肢の数を増す。④⑤			
	家庭との連携に努める。	三者面談を通して、生徒の家庭での不安や悩みの解決に努める。⑤⑪			
		遅刻や欠席を減らすため家庭への連絡を密に行い、進級・卒業を目指させる。⑦⑩			
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。⑦⑧⑨			
第 4 学年	進路意識を涵養し、最善の進路実現を図る。	個人面談や普段からの働きかけにより、自らの進路意識を高めて、最良の進路選択をして積極的に進路活動ができるようにできるよう指導する。⑤⑥			

別紙様式 2 (高)

	基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効に活用し、進路を実現するための学力を定着させる。①⑤⑥			
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。⑦⑧⑨			
働き方改革	働き方改革への意識を高める	ICT に関する研修を実施することで、授業への資料等を ICT で共有するなどして、業務の見える化を図り、働き方改革への意識を高める。⑮⑯			
		勤務時間の管理を徹底する。⑰			

※ 評価規準：[A、B、C、D、E の 5 段階で評価する]

A・・・十分達成できている

B・・・達成できている

C・・・概ね達成できている

D・・・不十分である

E・・・できていない